

# テーマ設定

～うまく問いを作れたらレポートの半分は終わったようなもの～

レポートを書くには、まず与えられた課題から、自分の問い（明らかにしたい疑問）を見つけます。うまくいくとその後調べたり、書いたりするのが楽になります。

## 1. まずは課題をよく確認！

レポートの課題、提出期限、文字数などをよく確認しましょう。そもそも課題がよくわからない！ という場合は、授業のプリント、教科書をよく読んで、先生に質問しましょう。

## 2. 課題から、「自分の問い」を作る

例えば課題が「環境問題」だったとしても、環境問題にはたくさんのトピック、たくさんの資料があります。テーマが大きすぎると、調べてレポートを書くのは大変です。課題のテーマから、**小さく具体的な、自分なりの問い**を考えてから調べたり書いたりしましょう。まずはキーワードを考え、そこから解決したい疑問（自分の問い）を作ります。

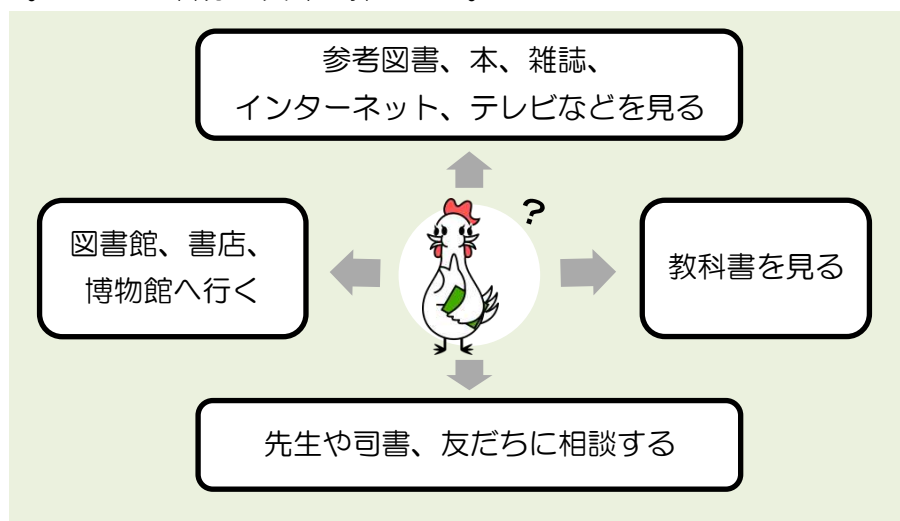


- × 環境問題について
- 気候変動枠組条約で地球温暖化は解消できるのか

### (1) キーワードを考える

「自分の問い」を作るために、まずは課題に関連するキーワードをたくさん出していきます。じっと机に座っていても、なかなか思いつくとは限りません。そんな時は、課題についての理解を深めながら考えましょう。

まずはいろいろな資料をざっと読んで、課題についての基礎知識や大まかな情報を得ましょう。そこから自分の興味を探ります。



## <マインドマップ>

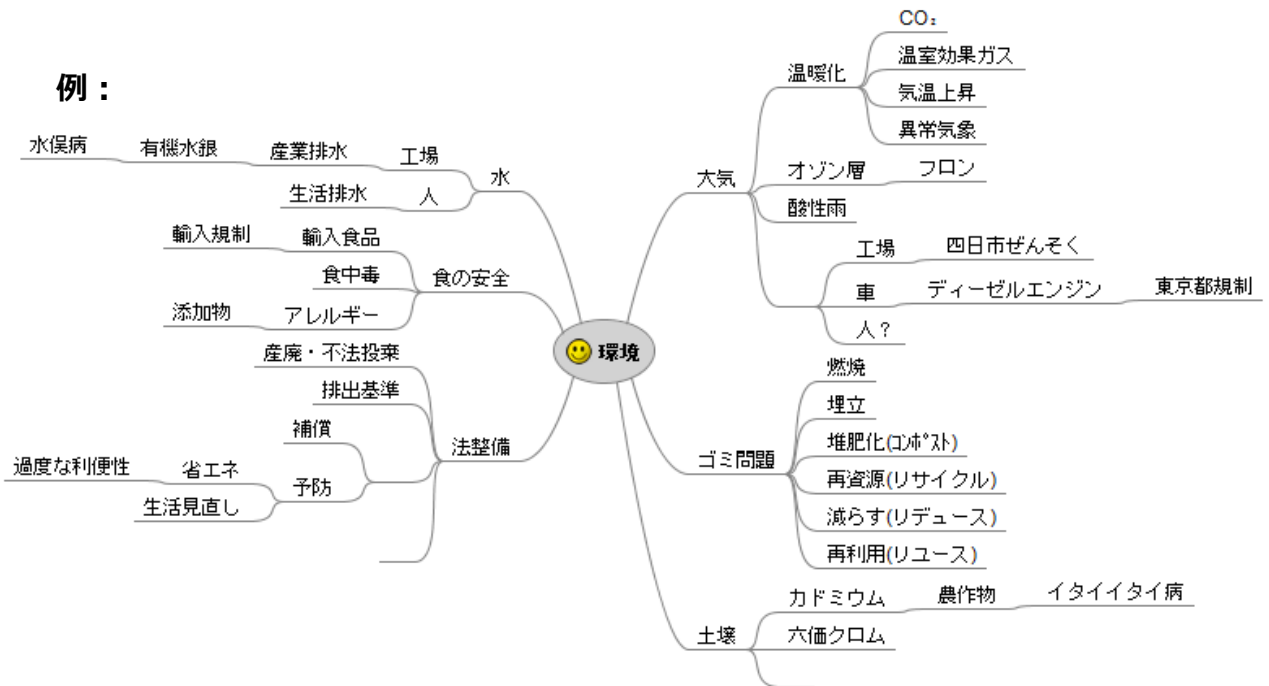
とりあえず漠然とテーマ設定をし、いくつか本を眺めてみたものの、どう進め、まとめたらいいか迷ってしまうことはよくあります。誰でもそう。だから心配しないで！

自分は何を調べたいのだろうか？ 調査途中で迷ったときは、

### 思いついた キーワード や 疑問点 を 紙 1 枚 に 書きだして みる

その時ただ書いていくのではなく、こんな技法をお試しあれ。ほら、調査がだんだん楽しくなってくる！

マインドマップは、イギリスの教育者トニー・ブザンが開発した思考法で、教育現場のみならず、ビジネスシーンにも広く活用されている思考のテクニックです。



## <手順は簡単>

紙の中心に調査主題を書き、連想したキーワードを並べていきます。

①上下を意識して ②強調、序列をつけて ③放射線状に つなげていきます。

絵や色をつけてもよいでしょう。

マップを書いて全体を眺めることで、自分の関心や疑問がどこにあるかが見えてきます。

ブザンいわく「真の知的自由とは、無秩序から秩序を生み出すことだ」「マインドマップはまさにそれを実現するためのもの」。知の迷走とはまさに思考の最中です。まずは自由に書いてみましょう！

キーワードが思いつかず手が止まってしまった人は、教科書や辞典などの内容に沿ってマッピングしてみましょう。調査主題を変えて、いくつか描いてみてもよいかもしれません。



キーワードのヒントがほしい人は、  
辞書や事典など参考図書を見てみましょう

## (2) 絞ったキーワードから具体的な問いを作る

<5W1H> 以下の表のような5W1Hにあてはまる、質問の形を考えてみましょう。  
質問をたくさん考えてみることで、知らなかったこと、知りたくなったことや自分の調べたいことがだんだん見えてきます。

### 例：①キーワード「地球温暖化」

#### Who (それは誰が?)

誰が(何が)引き起こすのか? 人間の活動? それとも気候変動?

#### What (それは何?)

そもそもどんな現象? なにが問題? 具体的な気温の変化は?

#### When (それはいつ?)

いつごろから問題になっているのか? 過去と現在を比較してどうか?

#### Where (それはどこで?)

どの地域で影響が深刻なのか? 日本の現状はどうか?

#### Why (それはなぜ?)

温暖化はなぜ起こる? 二酸化炭素が増えるのはなぜ?

#### How (どのように? (量,数などは)どれくらい?)

温室効果ガスはどれくらい減らせばいい? 個人でできることは?

ここで

表を見直そう



表の質問から、より具体的な仮の問いを考えましょう。その問いをもう一度「5W1H」の表にあてはめて、さらに具体的な問いを作ってみましょう。

### 例：②仮の問い「地球温暖化を止めるために今、何ができるのか?」

#### What (それは何?)

温暖化を加速させているのは、経済大国の産業活動か?

#### Why (それはなぜ?)

なぜ国際的な取り組みが必要なのか? SDGsは有効なのか?

など…

できあがった5W1Hをみて、自分の問いを決めましょう。

問いは具体的になりましたか?

### よい「問い」はこんな問い!



- 自分が興味を持っている(自分のモチベーションを維持できますか?)
- 「問い」の形になっている(明らかにしたいことを疑問文にすると論証しやすい)
- 大きすぎない、専門的すぎない(自分の手に負えますか?)

キーワード 「  
 または  
 仮の問い 」

Who それは誰が？

What それは何？

When それはいつ？

Where それはどこで？

Why それはなぜ？

How どのように？ (量,数などは)どれくらい？



キーワードから考えた人は… 「仮の問い」を決めて5W1Hにあてはめよう  
 「仮の問い」から考えた人は… 自分の問いを決めよう

### 「自分の問い」が決まったら

これから調べていくうちに「別の問いのほうがいいかも…」と思うことがあるかもしれません。その時は、先生に相談してみてください。問いを変えたほうがいい場合もありますよ。

### 3. 問いに対する仮説（答え）を予想する

仮説を考えることで、「どんなことを調べたらいいか」、「どんな資料が必要となるか」、「このテーマで調べたいことがわかりそうか」などを考えることができます。

「自分の問い」の答えを予想して、書いてみよう